日本の農業（中学・地理）

（　　）中学校（　）年（　）組　氏名（　　）

鹿県産荒茶 初の首位

24年 2.7万トン、□抜く

2024年産の鹿児島県の荒茶生産量は、前年比3%増の2万7千トン（シェア37%）で、1959年に都道府県別統計を開始して以来、初めて静岡県（2万5800トン）を抜き全国1位となった。農林水産省が18日公表した。一番茶は静岡に1550トンの差をつけられたものの、堅調なドリンク原料需要に支えられ、二番茶後半から盛り返した。

鹿児島県によると、一番茶は静岡が1万トン（前年比10%増）へ増産したのに対し、鹿児島は前年並みの8450トンだったが、茶価低迷を受けて静岡が二番茶以降で減産。ペットボトル茶などのドリンク原料900トン（同3%増）だった。10アール当たり生葉収量は、前年から4%増えて1680キロとなり、主産地平均（1200キロ）を大きく上回った。

高齢化や茶価低迷で生産量が減少傾向にあった静岡は、新型コロナウイルス禍以降も減産が続き、2023年産では鹿児島との差が過去最少の1100トンに縮まっていた。

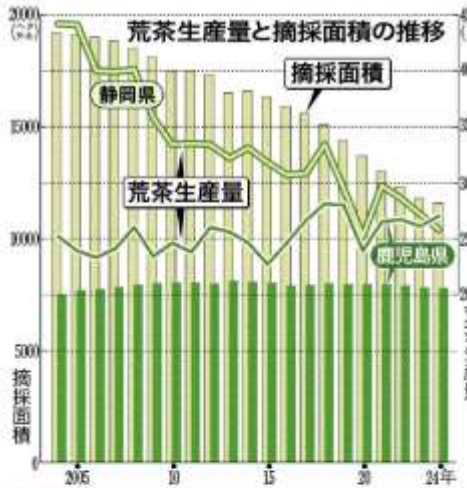
鹿児島は荒茶と生葉を合わせた茶産出額では、19年に一度だけ日本一になったものの、生産量では静岡の後塵を拝してきた。

塩田康一知事は「生産者や茶業関係者の努力による快挙。多様なニーズに対応した生産、国内外の販路開拓などを引き続き支援していく」とコメントを出した。

需要が強まり、鹿児島が二番茶後半から生産量を伸ばした。

鹿児島の摘採面積は前年並みの7790ヘクタール、荒茶加工前の生葉収穫量は静岡より1万1400トン多い13万

（21面に関連記事）



新芽を機械で摘み取る農家
＝2024年3月、西之表市古田

2025年2月19日付1面

【問1】　見出しの空欄に当てはまる県を次のア～エから一つ選びましょう。

ア 三重　　イ 宮崎　　ウ 福岡　　エ 静岡

【問2】　鹿児島県が二番茶後半から生産量を伸ばしたのはなぜですか。

（　　）

【問3】　鹿児島県の荒茶の生産は，問1の県と比べてどのような特徴がありますか。グラフから読み取れることを「摘採面積」「荒茶生産量」の語句を使って答えましょう。

（　　）

【問4】　塩田康一知事は，鹿児島県の荒茶生産をどのように支援するとコメントしていますか。二つ答えましょう。

（　　）

（　　）

【調べてみよう】　鹿児島県の茶について，生産の工夫や加工・販売の工夫など，茶業関係者がどのように努力しているか調べてみよう。

＊習っていない漢字とむずかしい言葉の解説

荒茶（あら・ちゃ）＝摘んだ葉を蒸してもみ、乾燥させたままの茶　抜（ぬ）き　堅調（けん・ちょう）＝相場が上昇傾向にあること　需要（じゅ・よう）　伸（の）ばした　摘採（てき・さい）　収穫量（しゅう・かく・りょう）　高齢化（こう・れい・か）　傾向（けい・こう）　禍（か）＝わざわい、災厄　後塵（こう・じん）を拝（はい）す＝人に先んじられる。後れをとること　販路開拓（はん・ろ・かい・たく）　支援（し・えん）

©南日本新聞社　教育目的以外の無断転載　複製および頒布は禁止します

南日本新聞社